

大分県姫島村西浦地区におけるケーススタディによる社会共通資本の特徴とサステナブルコミュニティの要件 — 集落の社会関係資本・社会共通資本からみるサステナブルコミュニティの要件に関する基礎的研究その 2 —

正会員 ○濱田菜波* 同 林孝茂* 同 西悠太*
同 姫野由香**

地区とコミュニティ 都市計画
集落構成

サステナブルコミュニティ

1. 研究の背景と目的

現在、各地域には様々な地域特有の形態を持つ集落・生活空間が存在し、独自の景観を構成している。

一方大分県姫島村は、昔ながらの漁業集落や、離島特有の風土、生活・産業により独自の景観を有している。近年、この漁業集落における景観を「重要文化的景観」として一体的に保護しようという取り組みが始まっている。これらの景観構成要素は、姫島村の産業、生活、風土によって相互に関係付けられて存在し、当該地域の景観が成り立っている。ゆえに、文化的景観を継承するには、景観を構成する要素を保全するだけではなく、それらと集落構成や風土、生活、産業との関係を理解し、その保全に努める必要がある。

本稿その 1 では姫島村における社会関係資本・社会共通資本に関する評価指標を抽出し大海地区でのケーススタディを行った。

そこで本稿その 2 では、西浦地区のケーススタディを加えることで、サステナブルコミュニティの要件を導出することを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、本稿その 1 で抽出した評価指標をもとに西浦地区でケーススタディを行う。最終的にその 1、その 2 をもとに姫島村におけるサステナブルコミュニティの要件を導出する。

3. 姫島村の集落構成と風土の関係

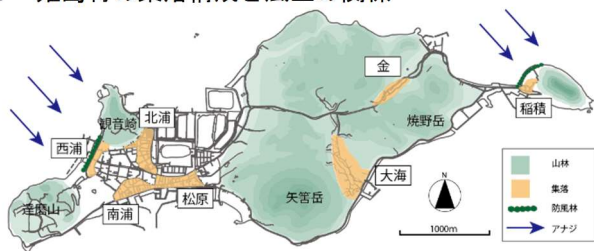


図1 姫島村の集落と風土の関係

姫島村の各集落には、離島特有の気候である海からの強風が、冬季の季節風や夏季の台風によって吹き付ける¹⁾²⁾。特に冬季の北西から吹き付ける風は、『アナジ』と呼ばれ、毎年西から暴風が吹き付ける。西浦地区は特にこの「アナジ」の影響を受けやすい。

4. 西浦地区における集落構成・生活空間の特徴

サステナブルコミュニティの要件を導出するため、



図2 集落構成図・家屋平面図（西浦）

その 1 で抽出した評価指標をもとに西浦地区で社会共通資本に関するケーススタディを行う。

〈ゾーニング〉西浦地区は季節風である『アナジ』の影響を最も受けるため、海岸沿いに防風林を植え、各家屋に防風壁を設けている。また、家屋の間隔を狭めて密集させることで強風を遮断し、その影響を軽減している。

〈境界〉1972 年に海岸沿いの埋め立て工事が行われた。また以前は、集落の東側には塩田が広がっていたが、塩田廃止後は芋や麦の畑や宅地に変化してきている。

〈生活空間〉図 2 に示す家屋は海岸沿いに位置し、西側に防風壁が設けられている。この防風壁は 1990 年頃に、山を切り崩して造られたものであり、家屋は北側が母屋、南側が隠居屋である。かつて姫島村で畜産が盛んに行われていた時期は、各家屋に牛小屋が存在した。現在この家では、牛小屋を隠居屋として増築している。母屋と隠居屋で囲まれた中庭は、漁業や農業に関する作業スペースとなっており、半農半漁の生活を象徴している。図 2 に示す家屋の内陸側には、何軒もの家屋が隣接している。これは、西浦の集落構成の特徴でもあり、一つの防風壁で、何軒かの家屋への風の影響を軽減しているためである。これらの家屋は、堀で四方を囲まれておらず、家屋の敷

地内を通り抜けるようになっていたり、隣人の敷地内を横切らなければ、自宅に入れない場合もある。このような家屋の配置が多い要因として、強風対策として家屋を密集させたこと、集落の東側に塩田が広がっていたため、狭い土地を有効に使う必要があったことなどが考えられる。

〈オープンスペース〉大海地区と同様に、姫島村の祭事や慣習と結びつきの深い『公民館』は、海岸沿いの整備後も継続して立地している。また西浦地区は、漁業で生計を立てていたため、地区内には、『恵比須社』、『見張り小屋』、『漁具庫』といった漁業関連施設が多数存在する。『恵比須社』は現在まで立地に変化がなく、『見張り小屋』は1972年の海岸沿いの埋め立てにより現在の場所に移動している。『漁具庫』は、海岸沿いや各家屋の敷地内に立地し、海岸沿いの漁具庫は主に共同で利用している。このように共同利用する漁業関連施設は、漁港付近に立地し、埋め立て後も海沿いに建てられていることが分かる。

〈交通〉海岸線に垂直な道路は狭くすることで、地区内に強風が吹くことを防いでいる。また、この垂直な道路は『セド』と呼ばれ、各家屋の間を通り抜けるようにできており、漁師が家から最短距離で漁港に設けられた道であり、姫島村の各集落にもみられる。

以上のことから、姫島村では、村の特性を考慮した集落構成や家屋構成になっている。また各集落内の、セドや、生業において重要な空間である中庭が各家屋に存在することにより、居住と労働が結びついていることが分かる。また、公民館や漁業関連施設は、基盤整備等の環境の変化後も存在し、慣習や生業の場としての機能を継承していることがわかった。

5. 姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要件

姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要件を、社会共通資本・社会関係資本の両面から明らかにする。その1で抽出したサスティナブルコミュニティの要素をもとに行った大海地区、西浦地区のケーススタディから、

表1 姫島村におけるサスティナブルコミュニティの要件			
分類	サスティナブルコミュニティの要素		姫島村でのサスティナブルコミュニティの要件
社会関係資本	共同体		【島全体】 ・祭事の後の「無常講」をはじめとする各種講が存在 ・「青年が、造んだり親泊まりをしていた」「若者宿」が存在 ・「船曳き祭」「盆踊り」は現在まで続く祭事 【大海地区】 ・「荒神祭り」は座元家で甘酒を造る祭事で現在まで継続
	産業		【島全体】 ・家族での漁労形態と長男子相続の規範意識 ・漁業に関する独自の規制を設け、共同体による資源管理の取組 ・半島半漁を全とし、生活を続けてきた。 （海運業・気候条件・塩田・畜産業が関係） 【大海地区】 ・「漁具庫」は座元家で甘酒を造る祭事で現在まで継続
社会共通資本	土地利用と生活空間	土地・家屋	【島全体】 ・「隠居」「分家」の慣習が存在 ・「風の影」を避けるために、低い「寄棟造り」が多い ・「隠居」の慣習と関係が深い「隠居屋」が存在 ・「家屋内」には農業や漁業の作業所となる中庭が存在 【大海地区】 ・「強風対策や狭い土地を有効に使うために家屋同士が密集」 ・「「アナジ」の影響を受けにくいため、家屋同士は密集していない」 ・「家屋の周辺に畑を所持」
		ゾーニング	【島全体】 ・「隠居」「分家」の慣習が存在 ・「風の影」を避けるために、低い「寄棟造り」が多い ・「隠居」の慣習と関係が深い「隠居屋」が存在 ・「家屋内」には農業や漁業の作業所となる中庭が存在 【大海地区】 ・「強風対策や狭い土地を有効に使うために家屋同士が密集」 ・「「アナジ」の影響を受けにくいため、家屋同士は密集していない」 ・「家屋の周辺に畑を所持」
		境界	【島全体】 ・「隠居」「分家」の慣習が存在 ・「風の影」を避けるために、低い「寄棟造り」が多い ・「隠居」の慣習と関係が深い「隠居屋」が存在 ・「家屋内」には農業や漁業の作業所となる中庭が存在 【大海地区】 ・「強風対策や狭い土地を有効に使うために家屋同士が密集」 ・「「アナジ」の影響を受けにくいため、家屋同士は密集していない」 ・「家屋の周辺に畑を所持」
	オープンスペース		【島全体】 ・「隠居」「分家」の慣習が存在 ・「風の影」を避けるために、低い「寄棟造り」が多い ・「隠居」の慣習と関係が深い「隠居屋」が存在 ・「家屋内」には農業や漁業の作業所となる中庭が存在 【大海地区】 ・「強風対策や狭い土地を有効に使うために家屋同士が密集」 ・「「アナジ」の影響を受けにくいため、家屋同士は密集していない」 ・「家屋の周辺に畑を所持」
社会共通資本	交通		【島全体】 ・「隠居」「分家」の慣習が存在 ・「風の影」を避けるために、低い「寄棟造り」が多い ・「隠居」の慣習と関係が深い「隠居屋」が存在 ・「家屋内」には農業や漁業の作業所となる中庭が存在 【大海地区】 ・「強風対策や狭い土地を有効に使うために家屋同士が密集」 ・「「アナジ」の影響を受けにくいため、家屋同士は密集していない」 ・「家屋の周辺に畑を所持」

姫島村におけるサスティナブルコミュニティ要件を示す。

【共同体】姫島村では、葬儀の準備を行う『無常講』をはじめとする各種講や、祭事、『若者宿』の存在により、島に対する愛着と島民同士の連帯感・仲間意識を高めてきた。このように相互扶助を実現する地域共同体や世代間で慣習を引き継ぐ仕組みが要件と考えられる。

【産業】家族での漁労形態や、『漁業期節』を定め、共同体による資源管理を徹底していた。また、姫島村では塩田業や畜産業、車えびの養殖業などの複数産業があったことにより自給自足の生活が成立していた。このように、徹底した資源管理と規範意識による後継者確保の仕組み、生活を支える複数産業の存在が要件と考えられる。

【交通】漁港と家屋を最短経路で結ぶ道である『セド』が各所に存在している。このことより、居住と労働場所が結びついていることが要件の一つである。

【オープンスペース】姫島村の慣習や祭事と関わりが深い公民館が各地区に存在している。また、生業である漁業との関わりが深い恵比須社や見張り小屋等も、埋め立て等の環境の変化後も継続して存在する。このことから、各地区に、慣習や祭事などの地域活動の際に、住民にとって利用頻度の高い公民館や生業に関する施設が継続して存在することが要件である。

【土地利用と生活空間】『隠居』や『分家』の慣習が存在しおり、そのため各家屋には隠居屋が設けられていた。また、母屋と隠居屋で囲まれた中庭では、漁業や農業に関する作業をする広いスペースが確保されている。以上のことから、集落特性を活かし、地域に根差した工夫がなされた集落構成や家屋であることが要件である。

6. 総括

本研究では、大分県姫島村を対象に、集落における社会関係資本と、集落構造の変容過程などの社会共通資本、またその両面からみた、サスティナブルコミュニティの要件を明らかにした。

社会関係資本に関するサスティナブルコミュニティの要件として、【共同体】の相互扶助を実現する地域共同体や世代間で慣習を引き継ぐ仕組みや、【産業】の資源管理と規範意識による後継者確保の仕組み、生活を支える複数産業が考えられる。社会共通資本に関する要件として、【交通】の『セド』により居住と労働場所が結びついていることが挙げられる。社会関係資本・社会共通資本の両面に関する要件として、【オープンスペース】の姫島村における地域活動の際に、住民によって利用頻度の高い公民館や生業に関する施設が各地区に継続して存在することがある。また、【集落特性と生活・土地利用】の集落特性を活かした集落構成や家屋であることも要件である。

【参考文献】
1) 姫島村教育委員会「姫島村史」、1986
2) 田中嬉雄「姫島と漁業」、1961
3) 坂田泉、月館敬栄「豊後姫島の漁業集落について」pp.137-140 日本建築学会東北支部研究発表会、1977

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程 大学院生
**大分大学工学部福祉環境工学科 助教 博士（工学）

* Graduate Student, Oita Univ.
** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng